

令和 5 年 5 月 24 日現在

機関番号：82620

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00200

研究課題名（和文）ポスト1968年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として

研究課題名（英文）Study on Art Collective in Post-1968：Based on Matsuzawa Yutaka's Archive.

研究代表者

橘川 英規（Kikkawa, Hideki）

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・文化財情報資料部・室長

研究者番号：20637706

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：松澤宥アーカイブズの研究資料としての重要性は、専門家間で認識されていながら、その全貌や詳細は、これまで確認されていなかった。この課題では、そのほとんどを調査、リスト化し、一部のデジタル化を行い、特に1968年以降の多様化する表現活動や1970年代前半の表現者たちの人的ネットワークを明らかにするための研究を行った。松澤宥、およびその周辺人物だけでなく、当時の重要人物である三木多聞、今泉省彦、生尾慶太郎、宮澤壮佳、篠原佳尾などの資料調査も進められ、同時代の表現活動の研究分野において大きな成果となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

松澤宥アーカイブズの全貌と詳細が明らかにされたことにより、このアーカイブズに含まれる多様な資料やデータは、専門家にとっての共有の情報源となった。また、それにより特に1968年以降1970年代前半の表現活動の多様化や表現者たちの人的ネットワークの明らかになったことは、当時の社会や文化の変遷、当時の表現者たちの活動や交流の軌跡をたどる研究の支援のひとつとなりうる。以上の研究成果は、文化研究や芸術史の分野において学術的な知見を豊かにするのみならず、一般の人々にも芸術や文化の魅力を伝え、さらに多様な価値観を提示し、貴重な情報源となることで、広く社会に貢献すると考える。

研究成果の概要（英文）：The importance of the Matsuzawa Yu Archives and its value as a research resource has been acknowledged among experts; however, the overall picture and detailed information had not been confirmed until now. In this project, we conducted investigations and categorization of the majority of the archives, partially digitized them, and specifically delved into unearthing the networks of artists and creators during the early 1970s, as well as the diversifying forms of artistic expression since 1968. The research efforts extended beyond Matsuzawa Yutaka and the immediate circle, encompassing figures of significance from that era such as Miki Tamon, Ishiko Junzo, and Miyazawa Takeyoshi. These endeavors resulted in significant achievements within the research field of contemporary artistic activities during that period.

研究分野：日本現代美術

キーワード：松澤宥 三木多聞 今泉省彦 生尾慶太郎 宮澤壮佳 篠原佳尾

1. 研究開始当初の背景

1960年代末から70年代にかけて展開された日本現代美術の歴史的、社会的背景に関する研究は、「もの派」展(ロサンジェルス、Blum & Poe ギャラリー、2012年)「Tokyo 1955-1970: A New Avant-Garde」(ニューヨーク近代美術館、2013年)、「Gutai: Splendid playground (具体美術協会)」展(グッゲンハイム美術館、2013年)などの展覧会、William Marotti氏「Money, Trains, and Guillotines: Art and Revolution in 1960s Japan」(Duke Univ Pr、2013年)、富井玲子氏「Radicalism in the Wilderness: International Contemporaneity and 1960s Art in Japan」(MIT BOOKS、2016年)の出版といった欧米での研究発表も増え、一方で国内においても、黒ダライ児氏『肉体のアナーキズム 1960年代・日本美術におけるパフォーマンスの地下水脈』(グラムブックス、2010年)、「ハイ・レッド・センター」展(名古屋美術館ほか、2013年)、赤瀬川原平展(千葉市美術館、2014年)、九州派展(福岡市美術館、2015年)、「THE PLAY」展(国立国際美術館、2016年)など特定の作家やグループの精緻な検証が行われている。このような特定の作家やグループを基軸とした研究に対して、「表現共同体」を主眼においた研究はまだ少ない。作家アーカイブズから見出せる緩やかな人的ネットワーク「共同体」の把握は、分野を問わず、人物や事象を研究するうえで、重要な情報源である。政治的・社会的・表現的に《大きな転換点》であった1960年代末から70年代を把握する上で、様々な分野の思想・技法を作品・活動に組み入れ、かつメール・アートやパフォーマンスを通して、多くの人物と交渉をもった松澤宥の「表現共同体」を明らかにすることが実態解明に有用であると考えられる。いままさに歴史として記述されつつある日本現代美術史において現在、見出されていない重要な視点、テーマを、松澤邸資料群(以下「松澤宥アーカイブズ」という)が提示するのではないかという学術的「問い」に基づき、本研究計画を立案した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上記(1)の学術的「問い」に基づき、1960年代末から70年代の表現者たちの核心にあったのは作家性を超えた「表現共同体」であったという仮説を立て、一般財団法人「松澤宥プサイの部屋」(理事長=松澤春雄(松澤宥遺族)、以下「松澤財団」という)が所蔵・管理する松澤宥アーカイブズ及び国内外の公的/非公的アーカイブズを調査・相互参照することで、松澤を中心とした「表現共同体」の実態を把握することにある。これにより、国内外の美術以外の芸術作家とのつながりにも明らかになり、「表現共同体」のネットワークの有機的な広がりとその双方向性を実証する。

3. 研究の方法

(1) 松澤宥アーカイブズの整理、データベース作成

現在下諏訪松澤宥邸にある膨大な資料のうち、1960年代末から70年代における松澤を中心とした「表現共同体」による活動に関する資料を精査、データベース化を実施する。

(2) 既存美術団体、美術作家との関連の検証

上記①で作成されるデータベースおよび松澤宥アーカイブズ実見に基づき、他アーカイブズとの相互参照により、これまでに「美術」の枠で捉えられなかった団体、作家を把握する。

(3) 美術館、画廊との関連の検証

上記①で作成されるデータベースおよび松澤宥アーカイブズ実見に基づき、他アーカイブズとの相互参照により、これまでの美術館、画廊以外での活動を把握する。

(4) データベース精緻化のための協力体制構築

松澤を中心とした「表現共同体」を把握するため、上記②③で明らかになった「美術」以外の要素の専門家との協力体制を確立、その専門家から得られる知見をデータベースに反映する。

(5) 松澤宥の「表現共同体」の地域固有性の検証

上記④で精緻化されたデータベースおよび松澤宥アーカイブズ実見に基づき、④にこれを検証すべく、研究者とともに研究協議会を行なう。

(6) 松澤宥の「表現共同体」の国際同時性/地域同時性に関する国際シンポジウム開催

上記②～⑤で得られた知見を社会に広く還元すべく、国際シンポジウムを行なう。

(7) 松澤宥の「表現共同体」に関するデータベース公開

上記①で構築したデータベースをインターネットに公開する。

4. 研究成果

(1) シンポジウム開催

©2023(令和5)年3月15日 文化財情報資料部令和4年度第10回研究会で東京文化財研究所にて、本課題の成果発表の研究会「ユートピアとしてのアーカイブ:松澤宥と瀧口修造」を実施した。

・久保仁志「松澤宥「φの部屋」と瀧口修造「影どもの住む部屋」:制作現場とアーカイヴ」

- ・富井玲子「作品と資料のあいだで—アーカイブから考える松澤宥のユートピア的作品性」
- ・土淵信彦「オブジェの店とプサイの部屋—瀧口修造と松澤宥のユートピア観を探って」
- ・橘川英規「虚空間状況探知センターから「世界蜂起」へ：松澤宥アーカイブズからみる 1970年代の表現共同体の構築の試み」
- ・ディスカッション（司会：塩谷純・橘川英規）

◎2023（令和5）年3月16日 本課題とJSPS 科研費 JP21H00499「デジタルアーカイブ時代における1960-70年代の芸術表現の拡張に関する研究」により、東京文化財研究所にて、シンポジウム「日本戦後芸術をめぐるアーカイブの実践的研究」を実施した。

セッション1「1960-70年代を中心とした実験映画、アンダーグラウンド映画のアーカイブとその可能性」

・足立・タッシュ アン（コラボラティブ・カタロギング・ジャパン [CCJ] 代表）「CCJ の実践」

・松房子（TAKU FURUKAWA ARCHIVE 運営）「アニメーション・アーカイブの実践」

・平沢剛（明治学院大学言語文化研究所研究員／映画研究者：進行兼）「アンダーグラウンドとアーカイブの非親和性」

セッション2「資料から探る戦後芸術の足跡」

・三上 豊（東京文化財研究所客員研究員／編集者）「アトリエを書籍と画像で記録する」

・三上満良（元宮城県美術館副館長／近現代美術研究者）「資料調査と展示から探る糸井貫二（ダダカン）」

・松山ひとみ（大阪中之島美術館アーキビスト）「作家資料保管者としての美術館」

進行：細谷修平（和光大学客員研究員／美術・メディア研究者）

(2) 発表

◎2019（平成31）年2月16日 シンポジウム「松澤宥アーカイブの現状と活用」（平成30(2018)年度文化庁地域と共同した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「松澤宥アーカイブ活用プロジェクト」主催）で長野県下諏訪町の諏訪湖博物館・赤彦記念館にて、本課題の成果発表として橘川英規「松澤宥アーカイブの芸術史研究への活用—1951年に諏訪市で開催されたふたつの前衛芸術イベントを例に」を発表した。

(3) 図書刊行

・三上豊編『紙片現代美術視 篠原佳尾旧蔵資料より』（和光大学表現学部芸術学科三上研究室、2019年6月）

・三上豊編『生尾慶太郎旧蔵資料から：ある美術資料覚え』（和光大学表現学部芸術学科三上研究室、2019年12月）

(4) その他（アーカイブズ資料リストの公開）

リサーチ・マップ：橘川 英規 (Hideki Kikkawa) – 資料公開 ページにて、以下のデータベースを公開した。

・松澤宥アーカイブズ_日本概念派関連イベント資料

・松澤宥アーカイブズ_Data Center for Contemporary Art 資料

・三木多聞スクラップブック収録展覧会資料リスト

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 橋川英規
2. 発表標題 松澤宥アーカイブの芸術史研究への活用 1951年に諏訪市で開催されたふたつの前衛芸術イベントを例に
3. 学会等名 シンポジウム「松澤宥アーカイブの現状と活用」（平成30(2018)年度文化庁地域と共同した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「松澤宥アーカイブ活用プロジェクト」主催）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋川英規
2. 発表標題 虚空間状況探知センターから「世界蜂起」へ：松澤宥アーカイブズからみる1970年代の表現共同体の構築の試み
3. 学会等名 研究会「ユートピアとしてのアーカイブ：松澤宥と瀧口修造」
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 三上豊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 和光大学表現学部芸術学科三上研究室	5. 総ページ数 121
3. 書名 紙片現代美術視 篠原佳尾旧蔵資料より	

1. 著者名 三上豊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 和光大学表現学部芸術学科三上研究室	5. 総ページ数 102
3. 書名 生尾慶太郎旧蔵資料から ある美術資料覚え	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>アーカイブズ資料リストの公開 リサーチ・マップ：橋川 英規 (Hideki Kikkawa) &#8211; 資料公開 https://researchmap.jp/kikkawahideki/published_works ・松澤宥アーカイブズ_日本概念派関連イベント資料 ・松澤宥アーカイブズ_Data Center for Contemporary Art 資料 ・三木多聞スクラップブック収録展覧会資料リスト</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	河合 大介 (Kawai Daisuke) (10625495)	岡山県立大学・デザイン学部・准教授 (25301)	
研究分担者	三上 豊 (Mikami Yutaka) (60329018)	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・文化財情報資料部・客員研究員 (82620)	
研究分担者	塩谷 純 (Shioya Jun) (90311159)	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・文化財情報資料部・上席研究員 (82620)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------